

# 課題挑む

技術士のソリユーション

[65]

## 就職難の根本原因

経済のグローバル化や円高による企業業績悪化の動きは止まらない。出口の見えない就職氷河期に突入したようである。モノづくり基盤を担っている大学工学部の教員から、就職難の根本原因は社会経済環境要因だけではないとの指摘もある。



プロエンジニア  
教育研究所代表  
粕谷 茂 (機械部門/総務部 技術監理部)

技術者教育⑧

## 大学のモノづくり教育

思考能力の低下、コミュニケーション能力の低下、チャレンジ精神の欠如なども原因に挙げられる。そのような中、大学の教育の意義や目的を再吟味し、本質的対応策を講じなければならぬ時期が来た。

## 統率力、挑戦心、創造性など

### 思考・行動特性高める工夫を

2005年から山口大学工学部では、4年生を対象にプロジェクト型実践教育を試行している。教育のあるべき姿を目指した取り組みに、私も参加している。

具体的には、機械、電気が電子、情報、土木、化学、デザインなどの学科の垣根を越えたものづくりにおける創造性基盤を構築することである。

自信を持たせる。つまり、課題解決スキームを進め方を学び、パワーポイントとパネルにまとめ発表する。



### 学生の発表パネル事例

#### 商品開発を通じたシステムのアプローチとした。

#### コンピテンシー

その結果、従来の方法と比べ、以下のような三つの発見があった。

- ① 学部の垣根を越えたディスカッションを実施したことで、チームメンバーを認め合い、苦手なコミュニケーションを克服できた。
- ② マーケティング手法を駆使した商品コンセプトの設定、課題設定、アイデア出し、プレゼンテーションなどの業務プロセスを通じ、期待以上に課題解決能力が養われた。
- ③ あらかじめ価値観アセスメントによるチーム編成を実施したことで、リーダーシップやチャレンジ精神、創造性などのコンピテンシー(思考・行動特性)を高めるプログラムとなった。

コンピテンシーとは仕事の成果に直結する要素としての「行動特性・発揮能力」のことである。その分野に秀でた人とそうでない人の間にある差を行動特性として可能な限り外に見える形の要素で表現した尺度である。具体的には、挑戦心、チームワーク、達成志向力、学習力、コミュニケーション力、課題解決力、共感性、交渉力、柔軟性、価値観など、目に見えにくい特性をアセスメントして評価する。今後の展開として、社会人となった学生の意識変容を追跡評価したい。(水曜日に掲載)

## 科学技術・大学